

ゲートオープン拡大トライアル

東京港

2日間計5521本

深夜シフト周知方法検討へ

東京港運協会は、5月18、19の両日に実施した「東京港ゲートオープン時間拡大トライアル」の結果を取りまとめた。それによると、2日間の早朝（午前7時30分～8時30分）、夜間（午後4時30分～6時）、深夜（午後6時から翌日午前4時）の合計取扱本数は5521本で、そのうち、深夜は39本だった。同協会は「大会時の日中の車両抑制に向け、深夜への輸送にシフトする周知・告知方法などを検討していきたい」としている。

今回のトライアルは、今夏に開催が予定されている東京五輪大会に向けて、全コンテナターミナル（CT）を対象に実施。深夜ゲートオープン（五輪の延期もあり、今回が初の実施となった）。	トライアルでは、現在各ターミナルオペレータ
が特定曜日で実施している、通常午前8時30分のゲートオープン時間を1時間繰り上げる早朝ゲートオープンに加え、「札掛け」（締め切り）を通常の午後4時30分から午後6時に延長。深夜のオープン対応は完全予約制で、午後6時から翌日午前4時まで行なった。	同協会のまとめによると、5月18日の取り扱い実績は合計3114本で、そのうち早朝は1108本、夜間は1980本、深夜は26本だったという。5月19日は、合計2407本、うち早朝が1089本、夜間が1305本、深夜が13本だった。東京港運協会は今回の
	結果について、「実施体制の発表から実施に至るまで1週間にも満たなかったことなどもあり、深夜の利用は少ない傾向にあった」と分析。「早朝・夜間については、近隣地域に納入するトラックの事業者などから非常に評判が良く、実施結果を踏まえた検討を進めてい

きたい」としている。

また都の関係者は、「深夜オープンの効果的な運用には、倉庫・荷主など受け先が時間帯をシフトすることが重要。関係者と引き続き協力し、大会期間中の混雑緩和を進めていきたい」と述べた。

東京五輪に向けては、東京都港湾局を中心に大会時の円滑な港湾物流確保に向け、貨物取扱量を「減らす」取り組みや、輸送時間やルートを「変える」取り組みを進めている。大会規模が縮小された

場合でも大会関係者車両の増加による混雑が予想されているため、ゲートオープン時間の拡大に加え、24時間利用可能な貨物の一時保管場所であるストックヤードの設置などの混雑対策を行っている。